

平成24年度

チャレンジド向け通信・放送役務提供・開発
推進助成成果発表

【聴覚障害者向けリアルタイム字幕配信役務の提供】

平成25年9月19日

特定非営利活動法人CS障害者放送統一機構

助成対象事業の概要

- ◆放送番組のニュースなどの情報生番組に対応するリアルタイム字幕をCS通信によって専用受信機を持つ全国の聴覚障害者に配信する役務により、重大な災害が発生した場合、あるいは、そのおそれがある場合に、災害情報番組に対するリアルタイム字幕を緊急配信する
- ◆役務を提供するためのリアルタイム字幕入力者を養成

助成対象事業の実績

◆平成24年度、111回のリアルタイム字幕配信

（東日本大震災時は、震災発生時よりただちにリアルタイム字幕配信を開始、オリジナル番組を含め、放送日数24日間、延べ放送時間21時間55分の緊急災害放送を実施）

◆平成24年度 9回の養成講座を実施

字幕送信の仕組み【送信側助成対象】

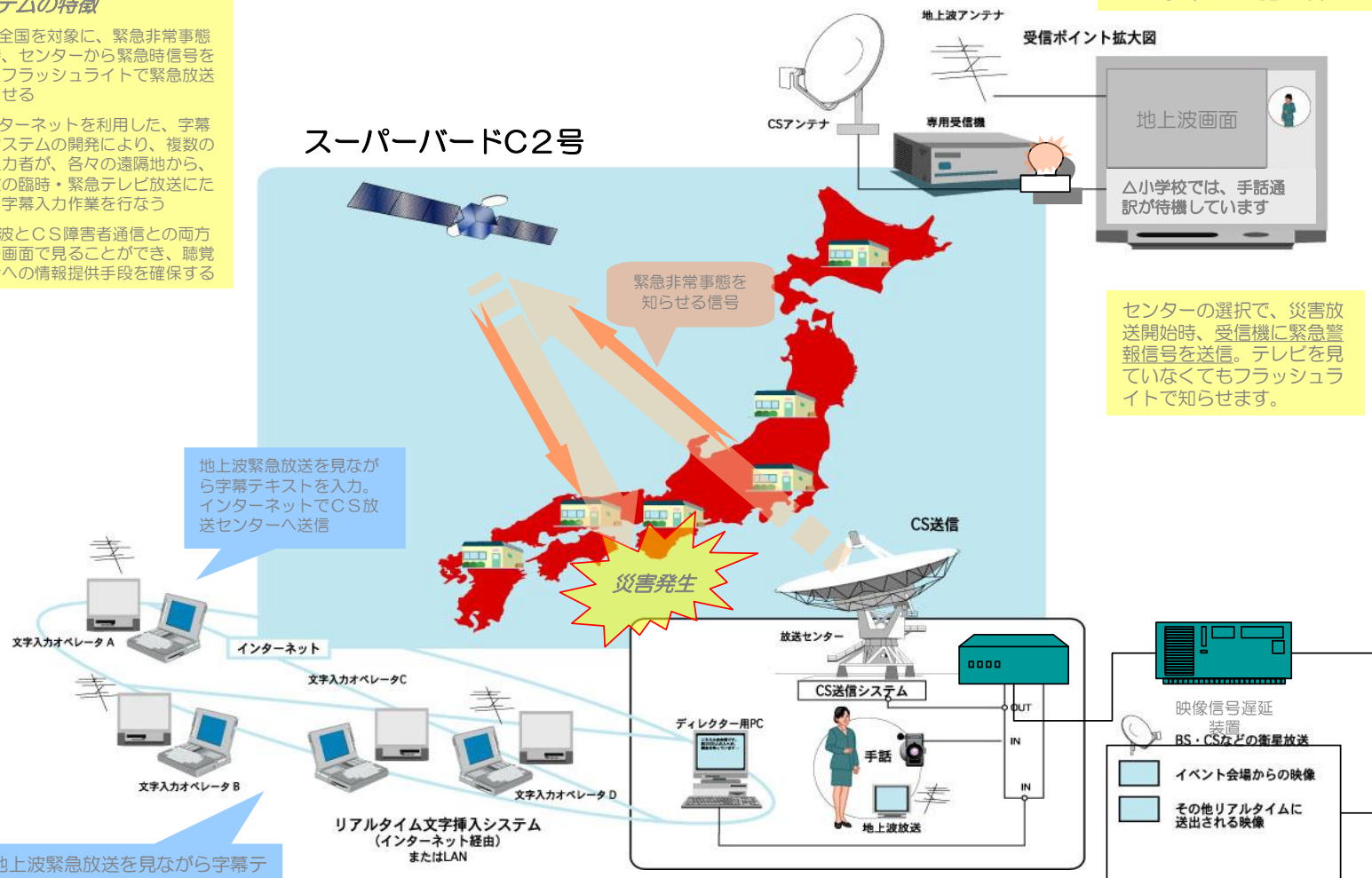
「目で聴くテレビ」緊急災害放送システム

システムの特徴

- 日本全国を対象に、緊急非常事態発生時、センターから緊急時信号を送り、フラッシュライトで緊急放送を知らせる
- インターネットを利用した、字幕入力システムの開発により、複数の字幕入力者が、各々の遠隔地から、地上波の臨時・緊急テレビ放送にたいし、字幕入力作業を行なう
- 地上波とCS障害者通信との両方を同一画面で見ることができ、聴覚障害者への情報提供手段を確保する

緊急時地上波放送に対し
字幕と手話を挿入

スーパーバードC2号



センターの選択で、災害放送開始時、受信機に緊急警報信号を送信。テレビを見ていなくてもフラッシュライトで知らせます。

CS障害者放送統一機構

サービス提供のイメージ【受信側助成対象外】

受信者のテレビに「専用受信機」を接続することによりサービスを提供



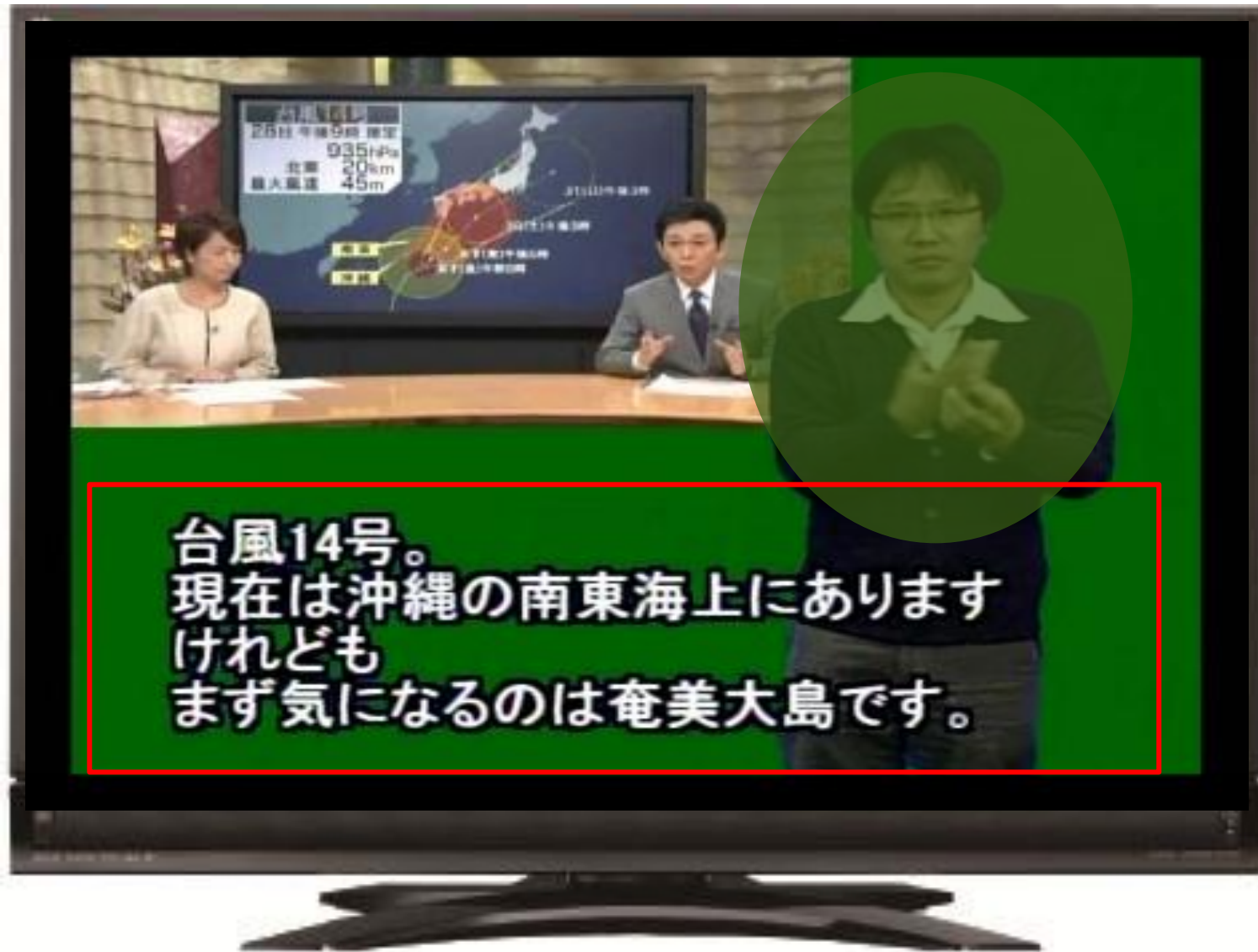
アイ・ドラゴン3

日常生活用具として給付対象

サービスの一例

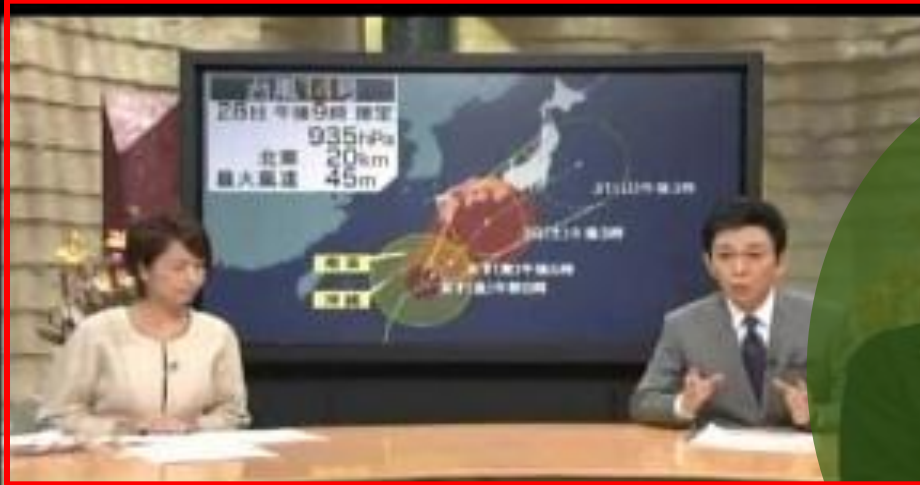


テレビにつなぐとこの様にみえます。



放送番組

CS通信



台風14号。
現在は沖縄の南東海上にあります
けれども
まず気になるのは奄美大島です。

本事業による アルタイム字幕配信の重要性 ①

地上デジタル放送のもとで、本事業による字幕配信は「もう必要ない」のでは？

【別紙①】をご覧ください。

【別紙①】

本事業によるリアルタイム字幕放送の重要性

平成23年度 系列ローカル局も含めた地上民放テレビ局の字幕放送の実績
(デジタル放送)総務省発表

	総放送時間に占める 字幕放送時間の割合	「視聴覚障害者向け放送普及行政の指針」の普及目標の対象となる放送番組における字幕番組の割合
NHK総合	61.0%	70.6%
在京準キー5局平均	46.1%	90.8%
在阪キー一局4局平均	41.7%	90.9%
全国の系列ローカル局 (101社)	32.9%	64.0%

【別紙①-2】普及目標の対象とは

◆2週間のサンプル週(平成23年5月30日(月)～6月5日(日)及び11月28日(月)～12月4日(日))における調査。

◆普及目標の対象となる放送番組とは、7時から24時までの間に放送される番組のうち、次に掲げる放送番組を除くすべての放送番組をいう。

◆普及目標の対象となる放送番組とは、7時から24時までの間に放送される番組のうち、次に掲げる放送番組を除くすべての放送番組をいう。

- 技術的に字幕を付すことができない放送番組(例 現在のところ、複数人が同時に会話を行う生放送番組)
- 外国語の番組
- 大部分が器楽演奏の音楽番組
- 権利処理上の理由等により字幕を付すことができない放送番組

◆在京キー5局:日本テレビ放送網(株)、(株)TBSテレビ、(株)テレビ朝日、(株)フジテレビジョン、(株)テレビ東京

◆在阪準キー4局:(株)毎日放送、朝日放送(株)、読賣テレビ放送(株)、関西テレビ放送(株)

◆在名広域4局:中部日本放送(株)、東海テレビ放送(株)、名古屋テレビ放送(株)、中京テレビ放送(株)

本事業による アルタイム字幕配信の重要性 ②

入力者の養成

聴覚障害者の権利としての字幕(障害者権利条約)入力者の養成

聴覚障害者を講師とした養成講座、平成23年度3回実施。聴覚障害者が画面の向こうに見える入力。人によるリアルタイム入力。



本事業の主体「目で聴くテレビ」

手話と字幕の番組

「目で聴くテレビ」とは？



目で聴くテレビ
キャラクター
eye龍(あい・ろん)

「目で聴くテレビ」は
聴覚に障害のある方のための放送局です。

1995年の阪神淡路大震災の教訓をふまえ、財団法人全日本ろうあ連盟、
社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会などが中心となり、98年
からCS放送（衛星通信）をスタート。

聴覚障害者自身がキャスターやカメラマンとして番組制作に参加。ニュース
や地域の話からスポーツ、手話学習、災害時の情報まで、手話と字幕で
さまざまな情報を発信しています。

手話と字幕の番組「目で聴くテレビ」番組紹介

バンクーバーオリンピック開会式
「アナザータイム字幕放送」↓

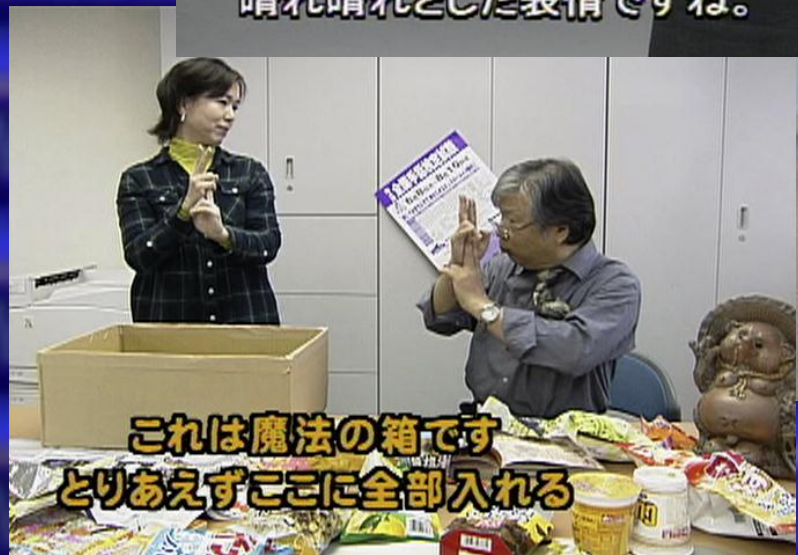


日本が紹介されました。
旗手を務めるのは5回目の
オリンピック出場の岡崎朋美選手。
晴れ晴れとした表情ですね。

生活に役立つ情報を
↓「健康レシピ」



子どもさんが熱が出た時に 病院に
連れて行くかどうかのポイントです



これは魔法の箱です
とりあえずここに全部入れる

←新しい手話を紹介
「目で聴く手話研究所」

■聴覚障害者向け手話と字幕の番組 「目で聴くテレビ」①

(1) 16年目に入った「目で聴くテレビ」の配信

- CS放送で週3日間、手話と字幕の独自番組を配信。
- 通常月2回開催の「障がい者制度改革推進会議」をリアルタイムに手話と字幕を付けて、内閣府より生中継。
- 著作権法改正により、地上波番組に手話を付けて別の時間に放送する「アナザータイム手話放送」を配信開始。
- 全国2局の地上波テレビへの番組提供（京都テレビ、テレビ神奈川）。
全国4局のケーブルテレビへの番組提供。

■聴覚障害者向け手話と字幕の番組 「目で聴くテレビ」②

(2)「目で聴くテレビ」の活動

- 専用CS受信機「アイ・ドラゴン3」は身体障害者の日常生活用具として市町村の給付対象。
- 聴覚障害者が、手話キャスター・ディレクター・カメラマンとして、番組制作に参加。
- 全国36カ所・聴覚障害者情報提供施設からの番組協力のネットワークを構築。
- 受信料によって支えられる聴覚障害者のための放送局。

おわりに

本事業の将来性

- 字幕付与の必要性
- 放送事業者との連携
- 有料サービスとして特化